

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0270102221 | | |
| 法人名 | 株式会社 サニーライフ | | |
| 事業所名 | グループホーム サニーライフ篠田 | | |
| 所在地 | 〒038-0011 青森県青森市篠田三丁目20番23号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人青森県老人福祉協会 | | |
| 所在地 | 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年10月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| 職員は、利用者と同じ目線に立ち、アットホームな雰囲気の中で過ごして頂いている。又、利用者の持っているマンパワーを活かして頂ける機会を作りお互い助け合っているようにしている。地域とのつながりも大切に行事等にも参加し社会とのつながりも大切にしている。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念方針を掲げ、朝礼時等で職員全体で復唱し、常に理念の追求に努めている。また、グループホームは市街地にあるため地域住民との関わりを大切にしながら、グループホーム内は非常に穏やかな雰囲気となっており、家庭的で親しみのある生活環境となっている。日々のケアでは安全で安心して暮らせることは勿論のこと、利用者の個性を尊重しコミュニケーションを最大のサービスとして取り組んでいる。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の申し送り時に、理念を共有する為、スタッフ全員で復唱してから業務についている。理念を常に意識できるよう見える場所においている。 | 地域密着型サービスの意義に沿った理念を掲げ朝礼等において復唱しながら常に理念を意識しながら行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新年会や日帰り旅行など、地域行事への参加や、ホーム行事への参加をして頂けるよう回覧板に載せている。また近所の床屋や美容院を利用し、入居者の方が地域の一員として生活出来るよう配慮している。納涼祭は町内会に定着しており、毎年たくさんの方が参加して下さっている。その他近くの幼稚園などの慰問も行っていたい。 | グループホームが市街地にあることから祭りには地域住民が多く訪れている。また、お花見などそのシーズンに合わせた外出行事にも積極的に取り組まれ地域住民との交流に取り組まれている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 推進会議にも町内会の方が参加され、ホームの様子等を報告している。当ホームの中身、認知症の方の理解が得られるよう、回覧板に症状や対応の仕方を掲載している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回推進会議を行い、ホーム内での取り組みや対応を報告している。会議で出た意見や他から良い提案があれば、サービス向上の為、検討し活かしている。 | 会議では地域の方々に理解と支援を得るために情報交換を行い、委員から出された意見に対しては必要に応じて具体的に取り組まれている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センターの方や、市の介護保険課の職員に情報の提供や、わからない時は相談、報告しアドバイスをもらい取り組んでいる。他に消防などから避難訓練の指導を受けたりしている。 | グループホーム運営をする中で現場の実情やサービスの内容等の情報共有を行い、また、わからない事等があった場合は市役所担当者へ連絡をして問題解決に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部の研修に参加したスタッフは、研修の内容をホームの勉強会で報告したり、資料等を回覧スタッフ間で周知している。拘束におけるマニュアルがあり、いつでも確認できるようにしている。入居者の不安や苦痛にならないよう理解しケアに取り組んでいる。 | 研修で身体拘束の内容とその弊害を確認し、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。また、拘束についてのマニュアルを作成して常時確認できる体制を整えながら安全に過ごせるよう取り組まれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 目に見えるものでは、入浴時、全身のボディチェックを徹底し行っている。虐待に関する知識や理解を深める為、研修に参加し勉強会等でスタッフに周知している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部の研修に参加し、その資料を職員で回覧したり、勉強会等でスタッフに報告し、周知している。自立支援事業を活用している入居者様もおられる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 管理者が窓口になり、契約時、利用者や家族に対し説明する際、理解して頂けるよう、内容をわかりやすい言葉に噛み砕いて説明し、納得されている。内容が変更になった時は、迅速に対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に状態を報告し、意見や要望があれば検討し対応している。毎月、近況報告書を作成し、家族に送付している。玄関に意見箱を設置し利用者や家族から気軽に話せる雰囲気作りにも努めている。 | 家族等が職員に対して意見・不満・要望等表せるよう玄関には意見箱を設置し積極的に聴く努力をし、運営推進会議のメンバーや行政の窓口等に相談するなど、外部に利用者及び家族が話せるようにしている。また、日々の中では家族の来所時に支援内容を報告しながら常に要望の吸い上げに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回ミーティングを行い、職員の意見交換をしている。また、年に一度のほか希望時には、経営者との面談を行い話し合いの場を設けている。 | 会議を通して職員間の意見交換を行い、必要に応じてその意見を運営に活かし、職員の働く意欲の向上や質の確保に繋げている。また、年一度を基本に経営者と面談を行い、現場職員の意見や情報をしっかり取り入れている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各自が向上心を持ってよう、職員より相談や意見がある時は、代表者と個人面談等し速やかに対応している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 入社後3カ月、6カ月で個人面談を行っている。自己評価の実施やまた、個人の力量の合わせた研修に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のグループホームの推進会議に参加したり、グループホーム協会に加入している。研修会や交流会に参加し意見交換をしており、ホームを見直す事でサービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にホームの事前見学をしてもらい、雰囲気を目で確かめてもらっている。見学时、面談を行い本人が困っている事等に耳を傾け、安心してサービスが受けられるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にホームを見学して頂きその際、面談を行っている。本人の状態を確認、家族の要望等を聞き円滑な関係が築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前に本人の心身状態等を関連機関などに確認し、本人、家族のニーズを把握する事に努めており、ケアマネ、看護師、職員と確認しサービス提供が出来るようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホームという場所を理解した上で、利用者一人ひとりのレベルに合わせた活動を取り入れたり、利用者の方から、教えて頂く場を作り、共に暮らしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に報告したり、月1回近況報告を送付し、状態報告し、家族の意見や意向を確認し、本人にとって良いケアができるよう一緒に考えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 日常の会話、家族から話を聞き、本人が大切にしている人や場所を把握し、外出したり電話やハガキ等で途切れないよう支援している。 | 地域との関わりを大切にするため利用者の日々の要望や家族からのお話を聞きながら馴染みの場所や友人等、外出や電話・手紙での連絡を持つなど繋がりを継続できるように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の間関係や認知度を把握し、食席やレクリエーションの時の配置にも配慮し、行っている。入居者同士の会話を大切にし、必要な時は間に入り、関わり合いがもてるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 引き続き本人のニーズにあったケアが継続して行えるように情報提供等をしている。又、家族へも相談やアドバイスをしたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を活用し、日常の会話等から本人の希望や意向を把握できるよう耳を傾けている。うまく伝える事が出来ない入居者に関しては、表情や行動を見て職員間で話し合いケアプランに活かしている。 | センター方式を活用して、利用者がどのように暮らしたいか、何を希望されているのか等を理解し、また、日々の表情や行動からも汲み取りながらケアプランの作成を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に本人や家族の方等から情報を収集し、入居後も本人や家族の方の面会時などに情報を収集し把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の状態を毎日の記録やセンター方式で把握し、その日、その時々々の状態を職員間で情報を共有している。必要時は、ミニカンファレンスを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向や要望を伺いケアマネ、看護師、介護職員でモニタリングや、担当者会議を行い現在、本人が抱えている課題に取り組みケアプランを作成している。必要時はカンファレンスを行い変更をしている。 | アセスメントやモニタリングを繰り返し行い、利用者、家族の視点に立った利用者主体の暮らしを反映する為、職員間で話し合い介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の様子や職員や他入居者との関わり時の様子等を記録に残し、情報の共有に努めている。課題が生じた時は、ミニカンファレンスを行い職員全体で取り組み、ケアプランに反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者や家族のニーズに対応出来るよう職員は情報の把握に努めている。その時の状態に合わせて個別に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事に参加したり、町内の婦人部の方がボランティアでホームでの納涼祭へ参加している。近所の理髪店や美容院を利用し刺激のある生活が送れるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時、かかりつけ医について本人や家族と相談し決めている。森クリニックと医療連携しており、月に2回往診を行い、緊急時には連絡し指示仰いでいる。必要時は、歯科の往診や皮膚科等へ受診している。 | かかりつけ医や希望する医療機関・医師の把握を行いながら、さらに協力医療機関と連携を図り月二回の往診を行い、一人ひとりの健康管理や医療支援に繋げている。その他、必要な診療科目への受診も行っている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 身体状態に少しでも気になる所があればすぐに看護師へ報告し必要な時は病院へ連絡、受診、往診出来る環境を整えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 提携病院や入院する病院や家族と情報のやり取りを行い、お互いにスムーズに入居者へ対応出来るようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期における本人の希望と今、現在の家族の考えの把握に努め、主治医へ意向の報告をしている。その際家族へグループホームで出来る事、出来ない事を十分に説明し支援に取り組んでいる。 | 重度化した場合の対応の在り方について、利用者や家族等、関係者と話し合っている。また、安心と納得を得られるように、状況の変化の度に連絡を密に行い、話し合いが行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会や外部の研修に参加し緊急時の対応を学んでいる。他、マニュアル等を作成し、いつでもすぐに見れるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年二回、日中や夜間を想定し地域住民参加の避難訓練を実施している。他、ホーム内のみで水害や地震の避難訓練を実施し、身につけるようにしている。地域住民参加時は事前説明をし役割を確認している。 | マニュアル等を作成して年二回の日中及び夜間の訓練を行っている、また、その訓練にはグループホームの職員だけでなく地域住民の参加を得ながら避難訓練等を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室に入る際や本人に関わる事は全て了承を得て行っている。一人ひとりの性格や状態に応じた声掛けを行っている。 | 職員全体が利用者の尊厳を大切にすることから言葉かけに注意を図りグループホーム全体が利用者を大切にしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 無理強いせず本人の希望や要望を引き出せるような声掛けを行い、自己決定を働き掛けるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのライフスタイルに合わせた支援に努めている。外出希望時は個別に対応し取り組んでいる。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時、外出時など着たい服を選んで頂いたり、季節に合わせた服装の声掛けを行っている。希望時には、近所の理髪店や美容院を利用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの力量に合わせ食器拭きや盛り付け、片づけ等行っている。週に1度お好みメニューや月に1度弁当の日を取り入れている。 | 利用者の張り合いや自信、楽しみや喜びとなるよう、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。食事への関心を高めるために週一度のお好みメニューや月一度を基本にお弁当の日を設けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 主食の量は月に1度測定している体重や状態に応じて量を決めている。食事の摂取量は毎日の記録に残している。個々に合わせた味付けや形状にて提供している。食事の前には嚥下体操を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後義歯を外して洗ってもらい、就寝時には洗浄剤にて一晩消毒をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄表を活用し排泄のパターンを把握できるようにしている。個々に合わせた声掛けを行いトイレでの排泄が出来るよう支援している。 | トイレでの排泄を進めることから習慣や排泄パターンを観察し、本人の生活リズムに沿った支援と利用しやすいトイレ環境に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝、起床時に乳製品を提供、昼食前の腹部のマッサージ、午前中には果物を提供している。それでも排便が無い場合には下剤を調整しながら対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 週に2回入浴出来るようにしているが、本人から拒否のあった場合は無理をさせず本人の都合に合わせている。 | 週二回を基本に利用者の習慣や希望に合わせて入浴支援を行っている。また、入浴を行うことによる利用者の負担感や羞恥心を理解した上で、無理強いをすることなく一人ひとりの意向を大切にしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の状態に合わせて食後、居室やソファにて休んで頂いている。室温や湿度に気をつけ快適に過ごせるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情報をファイルに挟み職員がいつでも確認できるようにしている。薬の飲み忘れが無いようポケット式の薬入れを使用している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | レクリエーションや作品作りを行い活気のある生活が送れるよう支援している。本人が楽しめるよう集団・個別でレクリエーションを取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は、外気浴や散歩を行っている。外出の希望時は対応出来るよう支援している。 | 季節に合わせた外出を実施し、日常的に外出できるような個別の外出支援にも可能な限り取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理の難しい入居者の方の金銭はホームで管理している。外出の時の支払いは本人が支払い出来るよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時電話を掛けたり遠方の家族へ手紙を掛けるよう支援している。又暑中見舞い、年賀状の作成をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一日三回、室温と湿度のチェックを行い、ブラインドで光の調整を行っている。季節感を感じて頂けるようホールの装飾や写真を掲示している。 | グループホームの食堂から見える川や風景が生活感と共に季節を感じる事ができる、安らぎの場となっている。また、一日に数回行われている室温と湿度の測定は、利用者に対してインフルエンザ予防等にも繋がりが安心と安全な暮らしの場となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間内で気のあった方やそれぞれ過ごせられるように雑誌やソファ、玄関先にはテーブル、椅子を置いてゆっくりできるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分で長年使っていた物、馴染みの物や大切な物を持ってきて居室で使用できるように支援している。 | 利用者の希望や家族からの意見を頂き使い慣れた馴染みの物を置き部屋全体が落ち着ける空間になる様に整えている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個人の居室前や、トイレ、浴室が分かるよう表札を設置したり工夫している。 | | |